

愛川町消防団第二分団 人情火消し

2008年 秋号

発行 愛川町消防団第二分団

編集 人情火消し編集委員会

平成二十年七月六日 第二分団合同訓練



消防庁舎訓練塔前にて

分団長 あいさつ

高峰地区の皆様方には、日ごろから第二分団の消防団活動につきまして、格別のご理解とご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

我々、第二分団は、高峰地区の消防団として、三増、小沢、箕輪、角田の各地域を管轄する第一部から第四部までの各部が、地域に根ざした活動を実施しております。

地域の安全を確保し、皆さんが安心して暮らしていただけるよう、火災時の消火活動はもとより、風水害における復旧活動や災害に備えた各種訓練、また、災害を未然に防ぐための啓発活動などに取り組んでいます。

今年度は、新たに九名の新入団員を迎えることができました。和やかな雰囲気の中にも規律を重んじ、活気に満ちあふれた活動を展開しているところです。消防団員としての貴重な経験が今後の人生にも役立つよう、「優しさ」と「厳しさ」そして「勇気」を兼ね備えた消防団員の育成を図り、これからも魅力のある消防団づくりを目指していきたいと考えています。

地球をとりまく環境や気象が激変している昨今、自然災害も大規模化・多様化の傾向にあり、災害時には、予測不可能なことも多く、被害の拡大が懸念されるところです。

このような時にこそ、消防団の特性である地域密着性、動員力を十分に発揮し、消防団活動の枠にとらわれることなく、各行政区の自主防災組織とも連携を図り、地域社会に貢献するという意志と、自分たちの地域は自分たちで守るという精神に基づき、安全・安心な町づくりを目指して、消防団活動に取り組んでまいりますので、引き続きご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

愛川町消防団第二分団

分団長 小島義幸

副分団長 高橋篤史

第二分団第一部（三増区）



部長あいさつ

今年度から第二分団第一部の部長を務めています。松本です。

現在、三増区は危機的状況におかれています。今年度は団員の入替わる年度でありましたが、残念ながら新入団員の入団がありませんでした。

そのため、昨年度で退団予定であった団員四名に、相談役として引き続き消防団活動の助言をしていただきたく、留任をお願いし、快諾していただいた次第です。

しかしながら、今までは十六名で消防団活動を行ってきたところを、実質十二名で活動を行うことになる訳です。力不足は否めません。

近年、私たちの三増区においては、火災などの災害はほとんど発生しておりません。

たとえ火災が発生しても、消防署による常備消防で鎮火される事例が大半です。

今のところ、この先も新入団員が加わる見込みは立っておりませんので、春や秋、年末の火災予防も三増

区は警戒にあたる人がいなくなってしまう。

今後、大規模災害が発生した場合には、常備消防だけでは対応することが困難になることが予想されます。

これから先、消防団員の構成は、各家庭の持ち回り当番制となるかもしれません。

このような状況を鑑みるに、我々三増区の消防団の存在意義を示すためにも、これを読んだ皆さん、ぜひ団員候補の連絡をお願いいたします。

活動報告

今期最初の活動として、ゴミゼロクリーンキャンペーンの参加と、水利点検を行いました。「水利って何？」と興味を持たれた方は、特集ページをご覧ください。

活動人数は少なくなりましたが、地域のために責任を持って取り組みます。

まいりま
すので、
これから
もご支援
のほどよ
ろしくお
願います。



水利点検実施風景

第二分団第二部（小沢区）



皆さんこんにちは。小沢地域を管轄している第二分団第二部です。

新体制発足！

日ごろから、消防団活動につきまして格段のご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

今年度は、皆様のご協力のもと、新入団員三名が第二分団第二部に加わりました。

これから、地域のために役に立てよう頑張っていますので、なにとぞご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

新入団員挨拶

清水 光一

消防団に入団し、良い仲間ができました。これからも消防団として、皆さんと活動したいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

熊沢 卓真

消防団に入団したきっかけは、昔消防団に所属していた父や祖父の後押しでした。入ってまだ間もないので、右も左もわかりませんが、先輩方にいろいろ教わりながら、地域のためにこれから頑張っていきたいと思っています。

齊藤 知弘

四月から消防団に入団してみて、最初はどのような事をするかもよくわからない状況でした。しかし、先輩方と接する中、消防団とはどういうものなのか、言葉づかい、マナーなどが勉強になります。今はわからない事がたくさんありますが、早く覚え、頑張っていきたいと思っています。

団員構成（定員14名）

部長	傍示 康紀（小沢）	新
副部長	熊澤 正登（小沢）	新
班長	熊澤 政勝（小沢）	新
班長	熊澤 一友（小沢）	新
班長	熊澤 賢一（上小沢）	新
班長	熊澤 和俊（小沢）	新
団員	四宮 喜平（上小沢）	新
団員	榎本 雅（小沢）	新
団員	坂元 裕（小沢）	新
団員	中溝 育夫（小沢）	新
団員	篠崎 直紀（小沢）	新
団員	清水 光一（梅沢）	新
団員	熊沢 卓真（小沢）	新
団員	齊藤 知弘（小沢）	新

第二分団第三部（箕輪区）



皆さんこんにちは、第二分団第三部長の関根和浩です。今年度、新たに三名の団員が加わりました。ご紹介をさせていただきますので、引き続きご指導のほどよろしくお願いいたします。

新入団員紹介

①名前 ②地区 ③入団した動機 ④消防団入団前と入団後のイメージ ⑤どのような団員にしたいか ⑥何か一言

①原健太郎 ②原箕輪 ③父が以前、消防団に入団していたことがあり、やりがいのある活動と思い入団を決意しました。④さまざまな活動をしているのを見て、時間が制約されてしまうのではないかと心配していましたが、思ったよりも制約されることはなかったのが安心しました。先輩方も優しく、わからないことは親切に教えていただけるのでありがたいです。⑤箕輪区の地域防災のために尽力できるような、真面目で正義感のある団員になりたいと思います。⑥皆が和気あいあいとしていて楽しく、

やりがいもあり、入団して本当に良かったです。

①ガニク西山リカルド ②原箕輪 ③友人が入団しており、どのような活動をしているのか興味があったので入団しました。④入団前は消防団に対するイメージはよくも悪くも全くありませんでした。入団後は、いろいろなことが経験できて、興味の尽きない場所だと思っています。⑤すべての人に頼られるような団員になりたいと思います。⑥入団したからには、地域の方々のために頑張りたいと思いますので、ご指導のほど、よろしくお願いいたします。

①諏訪部剛 ②原箕輪 ③転入してから日が浅かったので、地元との繋がりを強くするため入団しました。④消防団に対するイメージは特にありませんでした。入団してみると、規律のあるなかにも皆さんがアットホームで、雰囲気の良い場所だと思いました。⑤地域の皆さんにとって、身近で親しまれるような団員になりたいです。⑥6月入団ということもあり、まだまだ右も左もわからないことばかりですが、一日も早く馴染んで役に立ちたいと思います。



第二分団第四部（角田区）



こんにちは。今年度から三名の新入団員を迎え、新体制で消防団の活動をしている第二分団第四部です。日ごろ、地元の皆さまのご理解、ご協力、誠に感謝しております。

さて、今回の記事として、新入団員に入団してからの気持ちを聞いてみました。頼もしい新入団員に皆さん期待してください！

消防団員になって

山本 圭助 団員

消防団活動を通じて、日ごろの訓練の大切さを感じ、初めてのことがばかりで不安でしたが、先輩方のご指導のもと様々なことを体験し、学んでいます。また、今まで気にもとめなかった器具舎を意識するようになり、サイレンや放送にも敏感になりました。大変なことも多々あると思いますが、訓練を重ね、やりがいを感じながら地域の安全に貢献できるよう頑張っていきたいと思っています。

小坂 一史 団員

憧れの消防団に入団できたことを嬉しく思っています。入団する前は、

とても厳しいと思っていましたが、先輩方がとても明るく楽しく活動しているので、安心して参加しています。早くいろいろなことを覚え、地域のために頑張っていきたいと思っていますので、皆さんよろしくお願いいたします。

野口 豊 団員

入団して心に残っていることは、先輩方の訓練する姿です。雰囲気はとても明るく、新入団員の僕でも、受け入れてくれる懐の深さを感じています。

また、同じ地域の方同士での交流が深まるのも素敵な一面だなと思っています。これから、器具の使い方などをしっかりと覚え、少しでも役に立てるように頑張ります。

そして、職場の「大進館」でも、地元の役に立てるということで、活動に協力的な姿勢でいてくださいます。



山本団員 小坂団員 野口団員



野口団員

第二分団の活動

防火水槽



これは防火水槽の標識です。この標識の近くには、水が蓄えられた水槽が設置されています。下の写

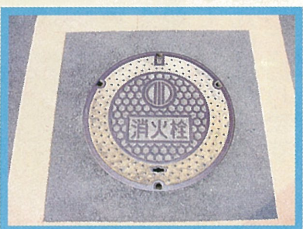


真はマンホール型ですが、他にもコンクリートふたの水槽もあるので注意してください。

消火栓



こちらは消火栓の標識です。この標識の近くには、水圧のある水道管に直接つながっている消火栓が



設置されていますので、ポンプなどがなくても消火作業を行う事が可能です。



特集 消防水利について！

皆さん、左側にある写真の標識

をいろいろなどところで見かけたことはありませんか？ これらは、消防水利といって、火災のとき、絶対に必要不可欠なものです。消防水利には、消火栓や防火水槽だけでなく、なんと学校のプールや河川、池なども含まれるのです！

愛川町の消防団が使用している消防車には、水が積まれているために、「火災現場に着いたぞ！ さあ放水だ！」といっても消防車から直接水を出せるわけではないのです。そのため、火災現場の近くにあるいくつもの消防水利を「どれを使った

ら一番早く消火できるか？ どこが一番便利なんだ？」と臨機応変に使い分けて消火活動を行うのです。しかし、火災が発生したときに、消火栓のふたが壊れていたり、防火水槽の水がからっぽだったり、と思うとゾッとします。ほかの水利を探している間に、火はどんどん燃え広がっていくのですから…。

たとえば、消火栓のふたの上に車が停まっていなかったら、とか、防火水槽のまわりが草木で茂っていないかな、とか。近くの消防水利でそんな状況をもし見つけたら、万が一火災があった場合に消火活動が遅れてしまうので、近くの消防団員や消防署に連絡してください。

大災害が起きたときには、消防署や消防団だけでは対応が難しくなると思います。皆さんも各自が消火器や消火栓などを使えるように、各行政区で行っている防災・消火訓練にできる限り進んで参加し、災害への予防知識を持ちましょう！

平成二十年度

第二分団活動報告(予定)

- 四月 辞令交付 ポンプ性能検査
- 七月 第二分団合同訓練(ポンプ)
- 八月 第二分団合同訓練(救助)
- 九月 愛川町総合防災訓練
- 十一月 秋の火災予防運動
- 十二月 歳末火災特別警戒
- 一月 消防出初式
- 三月 春の火災予防運動

その他 消防器具・水利の定期点検

※各自治会等の要請により、各種イベントでの警戒活動等も行っています。



新入団員募集中です！

安全・安心な高峰地区を目指して！

第二分団では、現在一緒に活動してくれる団員を募集しています。

「自分たちの地域は自分たちで守る！」という趣旨に賛同いただける方、消防団活動やボランティア活動に少しでも興味のある方は、自薦他薦を問いませんのでお気軽に町消防本部(285-3131)までお問い合わせください。

